

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



旧イギリス領事館(開港記念館)

No. 134

函館商工会議所報
1992—9月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

Lhくみカードローン

20万円から200万円まで

使い方自由

らくらく返済

担保・保証人不要

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。



函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

今月の表紙／視点 2
 会議所の動き 5

- ・本所六部会の幹事を決定!!
- ・本所第4回常議員会開催
- ・新幹線・国立大学等で道南が結束

第1回函館経済団体協議会開催
 鹿兒島商工会議所との姉妹盟約締結へ
 データーをチエック 6
 調査レポート 6

- 地域の景気 金融経済概況 七月 6
- 市内第一種大規模小売店舗売上高 七月 6
- 函館地域における景気動向 平成四年度 第一四半期 7

誌上講演 12
 ・経営者のガン予防 (6) 13
 ・人の使い方 14

共済推進コーナー
 ティータイム 15
 ・暮らしのワンポイント 「ワサビの上手なおろし方」 さわか君

アドバイスコナー 16
 ・借地・借家法の基礎知識 (1) 17
 ・有段を日指して 詰碁・詰将棋

Q & A 18
 ・みんなの相談室 19
 税務相談
 労務相談

ご案内 20
 ・予告 第34回優良商工従業員表彰 マル経営付ご案内
 ・新会員紹介
 ・会員サービス事業新規契約施設のご案内

告知板 22
 ・検定試験のお知らせ
 ・刊行物のご案内
 ・ご利用下さい! 本所の個別専門相談

◆今月の表紙
 旧イギリス領事館 (開港記念館)

元町の基坂を登り、市立函館病院向かいに建つ旧イギリス領事館は、文久三年(一八六三年)に現在のハリストス正教会の西隣に建設されたのが始まり。なお、一番最初の領事館は、初代領事ホジソンが安政六年(一八五九年)に称名寺に開設した。その後、数回の火災の為に焼失し、現在の建物は、イギリス政府工務省上海工務局の設計により、大正二年(一九一三年)に竣工したものであり、昭和九年(一九三四年)の閉鎖に至るまで領事館として使用された。平成二年からの整備事業により、今年八月一日からは、新たに同館の中に歴史展示室や当時の領事執務室の再現がなされているほか、レストランやショップを備えた開港記念館として生まれ変わり、観光客や市民に一般開放(一部有料)されている。

視点



八月末には少しは暑さを取戻しましたが、涼しいそして梅雨のような今年の夏は終わりました。これから迎える秋は、文字どおり天高く馬肥える秋であって欲しいものです。景況がより一段と厳しさを増してきている中で、日本商工会議所が、全国の商工会議所の会頭、副会頭を中心に実施した「内外の経済情勢と企業の取組みに関する調査」においても、回答者一七三二名の内八三%の方が、景気は悪い、もしくは非常に悪いと答えており、景気の回復時期についても、五四%の方が明年四月以降、もしくはさらに先になるとしております。また、最近の経済情勢については、1 所得環境が悪化する中で個人消費も先行きが懸念され民間設備投資も前年度を下まわる見通しにあり、政府見通しの経済成長率三・五%の達成は困難

2 製造業の生産は、八か月連続で対前年比マイナスとなっており、また、需要の低迷により在庫調整は長期化、

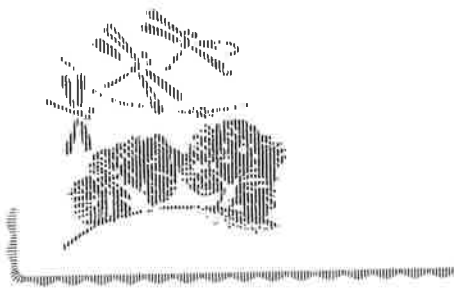
3 貿易の経常黒字は大幅に増加、経済摩擦の危機ラインとされる対名目G N P比二%を大きく突破

4 中期的な労働力不足という構造的要因は変わっていないが、足元の労働力需給は急速に緩和、このままいけば、今秋にも有効求人倍率は一・〇を切る可能性が大

5 全事業所の九九%を占める中小企業の経常状態が悪化かつての円高不況時に近い水準迄低下

ということで、政府も十兆円を越す補正予算で対処しようとしていますので早目早目に対策を進めていきたいと思います。

会議所の動き



本所六部会の幹事を決定!!
一般会員から27名を推せん!

本商工会議所の部会は、業種別の六部会で構成され、会員はすべて各部会に所属し、部会毎に関係する事業の適切な改善発達を図っております。

この部会に関する部会運営規約が昨年十二月、第三回臨時議員総会において一部改正され、効率的な運営を図るために、新たに幹事会を設置することができるとし、また、他の部会、委員会にも関係する事項については、合同会議を開催することができるとなりました。

これを受けて、各部会の正副部会長会議が開催され、幹事の推せんを決定、会頭により次の方々を幹事に委嘱されました。(正副部会長、議員の幹事は省略)

- ▼商業部会
- 荻下 市松 (株)荻下機械店
- 大槻 輝彦 大槻食材(株)
- 秋葉 元平 (株)ニセコ写真

- 中谷 秀輝 函館駅二商業(協)
- 鈴木慎太郎 (株)山竹鈴木商店
- 池田 石男 (株)湯川堂薬房
- 井ヶ田高彦 (株)丸山園茶舗
- 白井 利幸 (株)カネマル

- ▼工業部会
- 菅 鉄夫 (株)菅製作所
- 内田 孝 (株)ウロコ製作所
- 中里 重則 函館酸素(株)
- 石田 宏二 龍文堂印刷(株)
- 川田 正興 日本セメント(株) 上磯工場

- ▼運輸港湾部会
- 峰 英雄 全日本空輸(株) 函館支店
- 日下部一博 (株)函館地区トラ ック協会
- 小林 敏夫 共同通船(株)

- ▼観光サービス部会
- 斉藤 正義 (株)白光舎

- 沢田 稔 (株)ボール沢田美 容室
- 佐藤 豊和 鮪政本店
- 藤本 恭子 (株)オフィスK
- 庄司 忠逸 (株)日本交通公社 函館支店

- ▼農水産部会
- 福田 俊生 (株)函館カールレ イモン
- 竹田 英夫 函館市水産加工 業(協)

- 藤原 厚 函館水産物小売 商業(協)
- 高橋 進 函館自由市場(協)

- ▼理財部会
- 相馬 弘 相馬(株)
- 菅野 広道 函専クレジット

なお、現在決定している部会幹事会の開催予定は次のとおりです。

■本所六部会合同部会幹事会
 日時 九月十四日 午後三時
 場所 函館商工会議所会議室
 テーマ 「函館港湾計画について」
 講師 函館市港湾部品川部長

部会、委員会活動等を協議 本所第4回常議員会開催

本所第四回常議員会は、去る八月二十七日、函館ハーバービューホテルにおいて、議員二十五人が出席して開催されました。

最初に若林会頭から「新体制となつてから一年近くが経過、七月二十一日には正副会頭と部会長、委員長との懇談会を開催し、商工会議所の運営における問題点や今



▲開会挨拶を行う若林会頭

後の部会、委員会活動などについて貴重な意見をいただいたところであるが、本日の会議においても事業推進等について忌憚のない考えをお聞かせ願いたい」旨の開会挨拶がありました。

次いで議事に入り、まず報告事項として、議員の異動や陳情要望

新幹線・国立大学等で道南が結束 みなみ広域商工連絡協・新幹線道南期成会

北海道地域の商工会議所、商工会二十九団体により構成されている「みなみ北海道広域商工振興連絡協議会（会長、本所若林会頭）」の平成四年度第一回協議会が、去る八月五日、函館ハーバービューホテルにおいて開催されました。

当日は、平成三年度の事業報告と収支決算、平成四年度の事業計画と収支予算について審議し、これを決定するとともに、今後とも、より積極的に事業展開していくこ

活動、部会委員会開催状況、業務概要等について報告、いずれも異議なく了承されました。続いて附議事項に入り、新会員の加入については、四十事業所、八十八口の加入が原案どおり議決されました。

また、本所の運営についての協議の中で、部会・委員会活動の活性化や、小規模事業者の指導・育成、あるいは事務局体制の強化等の積極的な発言がなされました。

「当協議会としても、北海道新幹線の整備促進に関する決議をすべきである。」との意見が提出され、満場一致で承認されました。

続いて、北海道教育大学から今井憲一教授をお招きし、「北海道圏の特質と文化拠点形成―北海道に国立大学がなぜ必要か」と題しての講話をいただき、出席者一同、北海道は教育の場として非常に適している地域であると、認識を新たにしました。

とを確認しました。また、本年度第二回協議会を十月下旬、上磯町で開催することを決めました。また、渡島支庁から地方部振興課塚崎室長に出席をいただき、新幹線問題の最近の動向について説明をお願いし、その後意見交換を行いました。

協議会終了後、懇親会が開催され、新幹線や国立大学問題などが話題となり、相互に理解の度を深め、今後の地域経済の振興発展、北海道の活性化を推進する上で、有意義な会合となりました。

一方、北海道新幹線建設促進道南地方期成会（会長、本所若林会頭）による中央陳情が、去る九月一日に実施されました。

当日は、道南の首長ら三十三名が、地元選出国會議員や運輸省、北海道開発庁などに陳情、道南の新幹線誘致に対する一丸となった強い姿勢を示しました。

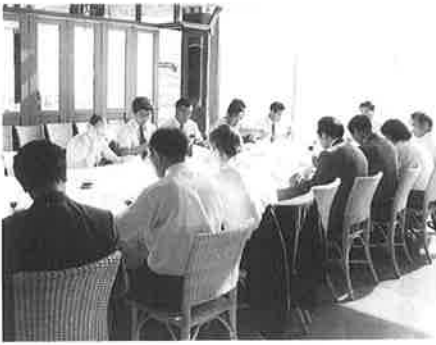
席上、北海道新幹線の早期着工のためには、北海道の商工会議所、商工会が一丸となった活動が必要な時に来ているとの見地から、

第1回 函館経済団体協議会開催

去る八月二十六日、函館商工会議所と亀田、銭亀沢両商工会の三者で構成する函館経済団体協議会の平成四年度第一回会議が、函館シーポートプラザにおいて開催されました。

会議には、当協議会の高野会長大角、中浜両副会長はじめ十六名の委員が出席しました。

当日は、平成四年度の事業計画について、各団体の事業を比較しやすいうように、一般事業と補助事業に分け、これを一覧表にした資



▲積極的に意見を述べる各委員

料を中心に、まず意見交換が行われ、次に早期に検討を要する次の三項目を中心に懇談がなされました。

(1) 新外環状線の早期建設について

(2) 亀田福祉センターの建替計画について

(3) 公安委員会函館自動車運転免許試験場移転に伴う跡地利用について

また、地域に直面する諸問題や、当協議会における今後の運営についても、活発な意見交換が行われました。

鹿児島商工会議所との姉妹盟約締結へ

函館市と鹿児島市は、北海道、九州のそれぞれの南端に位置しているとともに、幕末から明治にかけて、戊辰の役そして西南の役という日本の近代化へ向けた最後の内戦を経験しながら、現在では、古い歴史と豊富な観光資源を活かした街づくりを進め、また、今後は特にウォーターフロント開発を促進し、共に国際観光都市としての発展を目指しています。

さらに、函館、鹿児島両商工会議所では、運営面において、会員数、議員数、職員数等がほぼ同規模の状況にあり、今後の交流促進によって、互いに充実した事業運

営が図られることから、本年五月に鹿児島商工会議所より、本所との姉妹盟約締結の申し入れがなされ、六月の通常議員総会において、それぞれ議決されたところです。

こうした中で、去る八月二十八日には、鹿児島商工会議所の松元副会頭をはじめとする一行三名が来所、鹿児島商工会議所の岩崎会頭の親書が、松元副会頭より本所若林会頭に手渡され、来たる十月八日に鹿児島市で実施される鹿児島商工会議所創立百十周年記念式典での調印式が決定、本所にも十名以上の招請がなされました。



▲親書を受け取る本所若林会頭

なお、今後、予定されている交流事業の内容は次のとおりです。

(1) 会議所事業運営の活性化をめざして(相互研究事業)

① 部会・委員会の交流

② 婦人会等の交流

③ 地方拠点商工会議所としての一般事業、相談所事業の相互研究

④ 職員の交換研修

⑤ 情報交換(印刷物・O A化ほか)

(2) 地域振興をめざして(経済的、人的交流事業)

① 産業経済視察研修団の相互派遣

② 観光視察研修団の相互派遣

③ その他(函館、鹿児島両空港間の直行便就航など)

④ その他(函館、鹿児島両空港間の直行便就航など)



事務局日誌

8月

* 正副会頭会議

- 10(月) 第20回正副会頭会議
- 27(木) 第21回正副会頭会議

* 常議員会

- 27(木) 第4回常議員会

* 部会

- 5(木) 運輸港湾部会正副部会長会議
- 6(木) 観光サービス部会正副部会長会議
- 19(木) 農水産部会正副部会長会議
- 25(火) 理財部会正副部会長会議

* 会議(道商連)

- 4(火) サハリン経済視察(道商連主催)
- 31(月) 道商連会費問題検討委員会の小委員会

* 審査会

- 27(木) 小企業等経営改善資金審査会

* 諸会議

- 2(日) シンガポール政府観光局との観光姉妹都市提携歓迎パーティー
- 3(月) シンガポール政府観光局との観光姉妹都市提携調印式
- 5(火) 四共済幹事会社との打合せ会議
- 〃 みなみ北海道広域商工振興連絡協議会総会、懇親会
- 10(月) 函館市都市景観委員会
- 11(火) 平成4年度第1回中小企業振興審議会
- 〃 '92渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル実行委員会
- 19(木) 函館財務事務所による財政・金融政策に関する意見聴取
- 20(木) 平成5年3月新規高等学校卒業生就職打合せ協議会
- 〃 函館・下北連絡協議会幹事会
- 〃 産業デザインセミナー
- 〃 障害者職場見学会打合せ
- 21(金) 岡崎商工会議所による本所業務視察
- 〃 所報「ともえ」9月号 No.134編集会議
- 24(月) 函館鉄工機械関連企業受注対策委員会
- 25(火) 第3回ウォーターフロントフォーラム in 函館
- 26(水) 平成4年度第1回函館経済団体協議会
- 〃 新都心五稜郭協議会夏期例会
- 28(金) 鹿兒島商工会議所との姉妹提携に関する打合せ
- 〃 北海道連合三田会函館大会
- 29(土) 新幹線問題に係る勉強会
- 31(月) みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会役員会
- 〃 サンタマリア号イベント実行委員会、打上げパーティー

* 陳情・要望

- 4(火) 北海道新幹線建設促進期成会総決起大会
- 7(金) 北海道新幹線建設促進期成会第2回中央陳情

* 講習・催物

- 2(日)～7(金) 青函合同物産展(青森市)
- 7(金) 貸金管理セミナー「貸金処理の新設計」
- 〃 経営相談
- 28(金) 法律相談

* 刊行物

所報「ともえ」8月号 No.133

* 相談・診断

金融 83 税務 19 経理 7 経営 39 労働 1
その他 0 合計 149

* 貸室 13

* 文書 受信 186 発信 25

* 検定試験

- 23(月) ワープロ4級検定試験

* 慶弔・その他

- 1(土) 平成4年度函館市功労者表彰式
- 〃 函館市市制施行70周年記念式典
- 〃 北海道大沼国際セミナーハウス大ホール研修棟完成式典、祝賀会
- 〃 開港133周年記念函館港まつり開港セレモニー
- 〃 開港133周年記念函館港まつり開会式
- 3(月) 函館港まつり一万人踊りパレード出発式
- 〃 函館港まつり一万人踊りパレード十字街コース
- 4(火) 函館港まつり一万人踊りパレード出発式
- 〃 函館港まつり一万人踊りパレード五稜郭コース
- 〃～7(金) 平成4年度経営指導員研修(Aコース)
- 5(水) 函館港踊り大会
- 7(金) 青森ねふた祭りパレード
- 〃 開港133周年記念函館港まつり開会式
- 9(月) 市民制作函館野外劇5周年記念祝賀会交流会・観劇会
- 12(水) 函館プロモーション・ビューロー第7回ビアパーティー
- 18(火)～9/19(土) 中小企業事業団研修
- 20(木) 海上自衛隊創設・函館基地隊開隊40周年記念式典、祝賀会
- 〃 海上自衛隊大湊総監猪狩真氏、函館基地隊司令井野和雄氏表敬訪問
- 21(金) ㈱日本エアシステム札幌支店長戸田靖雄氏表敬訪問
- 〃 中国国際貿易促進委員会天津市分会海鎮圻氏他2名表敬訪問
- 〃 第二電電㈱専務取締役青山令道氏表敬訪問
- 〃 ㈱弘吉社創業70周年記念パーティー
- 25(火)～28(金) 平成4年度経営指導員研修(Bコース)

(5) 農・漁業

農産物の生育状況は、天候不順により水稲が一部でやや不良となっているほかはほぼ平年並みであり、野菜の出荷価格も総じて弱含み。

近海真イカ漁は豊漁なものの、魚価は大きく前年を下回っている。また、真コンブ漁は順調な水揚げが続いている。

(6) 消費関連

7月中の市内大型小売店（10店）売上は、百貨店を中心に夏物衣料が引続き不冴え裡に推移したほか、中元商戦も法人需要の伸び悩みから販売不芳が続いたため、全体では前年比で若干の伸びと低調な動き。また耐久消費財についても、自動車販売は、乗用車登録台数が15ヵ月連続で前年割れとなったほか、家電販売も全般的に不振を託っており、総じて低調に推移。

この間、当地夏場観光動向を窺うと、宿泊客数の鈍化や観光客の価格志向の強まりもあって、既往ピークを毎年大幅に更新してきた昨年までの勢いを失いつつあるものの、各観光施設、交通機関の利用客数は前年を上回る

ケースがみられ、全体としてほぼ前年並みの状況を呈している。

3. 金融事情（7月中）

実質預金は、前月末休日高止まり資金の剥落から著減した前年の118億円減を下回る月中71億円の減少となったものの、預金地合いについては、企業の資金効率化の動きが依然見受けられ、盛上がりを欠いた。一方貸出しも、月中42億円増と休日要因のみられた前年の2億円増を上回る増加となったが、設備・運転需資とも依然不冴えに推移した。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、利下げの浸透を映じて短期を中心に月中0.045%のマイナスと引続き低下。

銀行券は、夏場行楽資金等の還流から月中155億円と前年の181億円を下回る還収超となった。

財政収支は、租税、保険の受入れを主因に101億円の受超となったが、受超額は、郵便局の受超幅縮小を背景に、前年の161億円を下回った。

データをチェック!

専門・技術職の増加が目立つ

～ 若者の製造業離れ進む ～

着実に高まっているわが国の経済力。この間、人口の高齢化や技術革新などといった社会構造の変化がありました。こうした変化に適応することができた背景には、労働者の柔軟な対応があったことを見逃すわけにはいきません。そこで、社会の構造変化を労働面からみてみましょう。

ここ20年間に、職業別にみた労働者数はどう変化したでしょう。自動車組み立てなどの技能・生産職や事務・販売職の割合が減っている一方、コンピューター技師などの専門・技術職の割合が増えています。

なかでも、若年層（15～29歳）での増加が目立ち、ほかの世代の伸びを大きく上回っています。

また、産業別にここ20年間の労働者数の変化をみると、サービス業の割合が増えているのに対し、製造業の割合が減っているのが目につきます。

昭和45年には花形産業だった製造業も、現在の若年層の間では、サービス業、卸・小売業、飲食業に次ぐ第三の産業となっており、いわゆる若者の製造業離れが進んでいます。

産業別就業者割合の推移（非農林業）

<15～29歳>



<年齢計>



※上が昭和45年、下が平成2年

建→建設業 製→製造業
 運→運輸・通信業
 卸→卸売・小売業・飲食店
 金→金融・保険業・不動産業
 サ→サービス業 公→公務



1. 概況

最近の管内経済動向は、夏場観光が高水準の前年並みの入込みとなっているほか、公共工事の発注も順調ながら、民間設備投資には目立った動意がみられないほか、住宅投資の低迷や個人消費の増勢鈍化が続いており、全体として引続き緩やかな減速過程を辿っている。

すなわち、製造業では、電子部品が生産水準を幾分高めつつあるほか、造船も新造船建造を主体に高操業を続行しているが、一方で水産加工、乳製品は高めの生産水準を維持しつつも、売上や受注面で鈍化傾向が窺われているほか、一般・陸上機械の受注も盛上がりには欠け、木材・木製品でも住宅着工の停滞から低調な生産を続けている。また非製造業では、乗用車等耐久消費財の販売が引続き前年を下回っているほか、百貨店売上も低調裡に推移しており、建設業でも民間建設工事の不振を映じ、仕事量確保に躍起となっている。

この間、夏場観光については、観光客の価格志向の強まりはみられるものの、各施設ではますますの入込みをみており、全体としてほぼ前年並みの活況を呈している。

農業では、天候不順により水稻等が一部でやや不良となっているものの、その他はほぼ前年並みの生育状況。漁業も真コンブ漁で順

調な水揚げを続けているほか、真イカ漁も豊漁ながら価格は弱含み。

7月の金融動向をみると、預金、貸出しとも総じて引続き不冴え裡に推移。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は利下げ浸透から、短期を中心に引続き低下した。

2. 主要業種別動向

(1) 機械

半導体では、米国景気回復期待等から生産水準を徐々に引上げているほか、水晶振動子でも高めの生産に戻りつつある。また一般機械では、水産加工関連が引続き不冴えながら、製缶関連は豊富な受注残を背景に、合板関連も新製品関係を中心に、いずれもまずまずの生産を続けている。この間、造船は陸上機械の受注が伸び悩んでいるが、新造船建造を主体に総じてみれば高操業を継続。

(2) 食料品

水産加工は、乾燥珍味メーカーを中心に受注は伸び悩み傾向で推移。また、乳製品は、飲用乳の売れ行き鈍化を背景に生産は前年を下回っているほか、飼料・魚油も低調な売上が続いている。

(3) その他製造業

段ボールは、青果物、水産物向けを中心に前年を上回る生産・出荷を続けているほか、セメントも内需は伸び悩んでいるものの、東南アジア向け輸出の増加等から高めの生産を維持。一方合板は、盛上りを欠く住宅建設を背景として流通業者の当用買い姿勢に変化はなく、依然低調な生産を続けているほか、漁網の生産も引続き前年を下回っている。

(4) 建設関連

管内主要5官庁の公共事業発注は、引続き順調（4年度発注額累計7月末前年比プラス4.6%）に行われている。一方民需は、新設住宅着工戸数が前年割れとなったほか、新規建設案件も少ないことから、仕事量確保に躍起となる業者も散見されている。

【サービス業】

今期比△9.1、前年同期比△22.7と、いずれもDIがマイナスを示している。

細業種でみても、娯楽業が前期比で好転を見込んでいる以外は、すべての業種が今期比、前年同期比ともにDIが横ばいまたはマイナスを示し、警戒感を強めている。


に比べ「好転」とみる企業4.1%に対し、「悪化」とみる企業16.3%で、DIは△12.2とマイナスを示しているが、「不変」とする企業が79.6%を占めている。

業種別にDIをみると、小売業△20.0、製造業△15.6、サービス業△13.7を示しているが、各業種とも6割引以上の企業が「不変」と回答している。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期

お知らせ



4 904611 158999

商品にJANコードを印刷するためには、(財)流通システム開発センター／流通コードセンターに対して登録申請手続きを行い、あらかじめ商品メーカーコードを付与してもらう必要があります。

商工会議所では、このJANコードを印刷する際に必要となる商品メーカーコードの新規登録、更新登録の申請手続きの受付を代行しております。

JANコード(バーコード)の 登録申請手続きは商工会議所へ

☆お問い合わせ先☆ 振興課 (☎23-1181)

函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成4年7月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,558,354	116.0	102.2
身の回り品	724,714	105.1	103.8
雑貨	746,198	113.9	97.7
家庭用品	774,642	79.8	106.4
食料品	2,298,624	126.9	103.7
食堂・喫茶	170,581	121.0	97.2
サビズ	113,745	97.8	116.2
その他	548,552	121.1	77.5
総計	8,935,410	113.0	100.8

統計資料

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、
テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

「景気の見通し難」18.4%、「人件費等経費の増加」16.3%、「求人難」12.2%。

卸売業では「売上・受注の不振」34.1%、「純利益の減少」・「景気の見通し難」がそれぞれ13.6%、「販売価格の値下がり」11.4%。

小売業では「売上の不振」39.2%、「求人難・人材難」23.9%、「人件費の増加」13.0%。

サービス業では「求人難・人材難」19.1%、「客足の減少」・「営業経費の増加」がそれぞれ14.3%等となっている。

今 期 4 年 4 月～6 月実績
前年同期 3 年 7 月～9 月実績

来期(7月～9月)の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業15.5%に対し、「横ばい」企業55.2%、「悪化」するとみる企業29.3%で、D Iは△13.8とマイナスを示している。また前年同期比でも「好転」するとみる企業 8.2%に対し、「悪化」するとみる企業38.8%で、D Iは△30.6とマイナスを示し、悪化が予想される。

業種別にD Iをみると、今期比では建設業△33.4、製造業△ 2.0、卸売業△ 7.0、小売業△21.8、サービス業△18.2、また前年同期比でも、すべての業種でマイナスを示していることから、来期業況見通しは、業種間にはやや格差こそみられるが、総じて悪化基調が見込まれる。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全 業 種 (-30.6)	8.2	53.0	38.8
建 設 業 (-42.8)	4.8	47.6	47.6
製 造 業 (-28.6)	10.2	51.0	38.8
卸 売 業 (-22.7)	9.1	59.1	31.8
小 売 業 (-36.2)	8.5	46.8	44.7
サービ業 (-27.3)	4.5	63.7	31.8

2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業21.1%に対し、「横ばい」企業52.6%、「減少」するとみる企

業26.3%で、D Iは△5.2とマイナスを示し、前年同期比でも「増加」企業11.8%に対し、「減少」企業32.6%で、D Iは△20.8と業績悪化が予想される。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全 業 種 (-20.8)	11.8	55.6	32.8
建 設 業 (-21.0)	15.8	47.4	36.8
製 造 業 (-25.0)	8.3	62.4	31.3
卸 売 業 (-9.5)	16.7	57.1	26.2
小 売 業 (-25.5)	12.8	48.9	38.3
サービス業 (-22.7)	9.1	59.1	31.8

次に来期の売上見通しを業種別のD Iでみると、

【建設業】

今期比△5.2、前年同期比△21.0と、いずれもD Iがマイナスを示している。

細業種でも、職別工事業が楽観的な見方をしていない以外は、総じて減額を予想している。

【製造業】

今期比 2.2、前年同期比△25.0と、前年同期比ではD Iがマイナスを示している。

細業種でみると、水産加工業と造船業が今期比でプラスを予想しているが、漁網業と木製品・家具業では今期比、前年同期比ともにマイナスを示しており、厳しい見方となっている。

【卸売業】

今期比 7.3、前年同期比 △9.5と前年同期比ではD Iがマイナスを示している。

細業種でみると、燃料業と一般機械器具業では今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し、減額を予想している。

【小売業】

今期比△21.7、前年同期比△25.5と、いずれもD Iがマイナスを示している。

細業種でも、飲食料品販売業が増額を見込んでいる以外は、すべての業種が今期比、前年同期比ともにD Iが横ばいまたはマイナスを示し、業績悪化を予想している。

イナスを示し、業績は厳しい状態が続いている。

細業種でみても、各業種とも横ばいまたは減額基調で推移している。

このように今期の建設業界は、民間建築で大型物件を中心に依然、低迷が続いているため、仕事量の減少傾向が顕著になっている。

【製造業】

今期の生産額についてのD Iは、前期比4.4と若干のプラスとなっているが、前年同期比では△24.0とマイナスを示している。

細業種でみると、飲食料品業が前期比、前年同期比ともに増額している以外は、総じて横ばいまたは減額基調にある。

【卸売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比で18.2とプラスを示しているが、前年同期比では△21.4とマイナスを示し、悪化している。

細業種でみると、織物・衣服・身の回り品業と医薬品・化粧品業が増額基調にあるが、燃料業と一般機械器具業では前期比、前年同期比ともにマイナスを示している。

【小売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比△19.1、前年同期比△26.7と、いずれもマイナスを示している。

細業種でみると、特に各種商品販売業、自動車販売業、金物販売業では前期比、前年同期比ともに大幅なマイナスを示し、業績悪化を訴える企業が多くなっている。

【サービス業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比△4.6、前年同期比△38.1と、いずれもマイナスを示し、特に前年同期比では元年度第一四半期以来の悪化となっている。

細業種でみると、自動車整備業と娯楽業が前年実績を上回る勢いをみせているが、行楽シーズンを迎えた、ホテル・旅館業では7割以上が前年同期比でマイナスを訴え厳しい見方をしている。

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業16.8%に対し、「横ばい」企業44.1%、「減少」している企業39.1%

でD Iは△22.3とマイナスを示し、悪化傾向を示している。

また、今期の純利益を前年同期比でみると、「増加」企業10.0%に対し、「横ばい」企業42.8%、「減少」企業47.2%でD Iは△37.2とマイナスを示している。

業種別にみても、すべての業種が悪化傾向を示している。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

	(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-37.2)	10.0	42.8	47.2	
建設業 (-40.9)	0.0	59.1	40.9	
製造業 (-45.7)	6.5	41.3	52.2	
卸売業 (-30.2)	14.0	41.8	44.2	
小売業 (-27.7)	17.0	38.3	44.7	
サービス業 (-50.1)	4.5	40.9	54.6	

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業4.5%に対し、「悪化」した企業21.0%で、D Iは△16.5とマイナスを示しているが、「不変」とする企業が74.5%を占めている。

業種別にみても、各業種とも6割以上の企業が「不変」と回答している。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

	(D.I)	好転	不変	悪化
全業種 (-16.5)	4.5	74.5	21.0	
建設業 (-14.3)	0.0	85.7	14.3	
製造業 (-17.8)	0.0	82.2	17.8	
卸売業 (-14.2)	4.8	76.2	19.0	
小売業 (-13.0)	10.9	65.2	23.9	
サービス業 (-27.3)	4.5	63.7	31.8	

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、「売上・受注の不振」をあげる企業が全業種では34.5%とトップを占めている。

問題点を業種別にみると、

建設業では「受注の不振」40.0%、「求人難」・「純利益の減少」がそれぞれ15.0%、「景気の見通し難」10.0%。

製造業では「売上・受注の不振」39.0%、

函館地域における 景気動向

〈平成4年度・第1四半期〉

平成4年度・第1四半期（平成4年4月～6月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので、概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	206社	64.4%
建設業	40	24	60.0
製造業	80	55	68.8
卸売業	70	50	71.4
小売業	90	53	58.9
サービス業	40	24	60.0

（注）本調査結果の中のD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

前期：4年1月～3月実績

前年同期：3年4月～6月実績

今期(4月～6月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業20.1%に対し、「横ばい」企業46.4%、「悪化」している企業33.5%で、D Iは△13.4とマイナスを示し、業況の悪化がみられる。

業種別のD Iで見ると、建設業△9.1、製造業△6.6、卸売業△2.2、小売業△37.7、サービス業△4.6と、いずれもマイナスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業10.2%に対し、「横ばい」企業47.2%、「悪化」企業42.6%で、D Iは△32.4を示し、前年より悪化している。

これを業種別のD Iで見ると、すべての業種でマイナスを示しており、各業種とも3割以上の企業が「悪化」を訴えている。

このように今期の業況を前年同期比で見ると、生産活動や個人消費の停滞から総じて悪化基調で推移している。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

	(D,I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (-32.4)	10.2	47.2	42.6	
建設業 (-36.5)	9.0	45.5	45.5	
製造業 (-31.8)	12.8	42.6	44.6	
卸売業 (-21.5)	9.5	59.5	31.0	
小売業 (-38.6)	9.1	43.2	47.7	
サービス業 (-38.1)	9.5	42.9	47.6	

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業27.1%に対し、「横ばい」企業43.6%、「減少」している企業29.3%で、D Iは△2.2とほぼ横ばいとなっている。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業12.5%に対し、「横ばい」企業48.3%、「減少」企業39.2%で、D Iは△26.7とマイナスを示し、前年に比べ業績は悪化している。

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

	(D,I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-26.7)	12.5	48.3	39.2	
建設業 (-31.9)	4.5	59.1	36.4	
製造業 (-24.0)	13.0	50.0	37.0	
卸売業 (-21.4)	16.7	45.2	38.1	
小売業 (-26.7)	13.3	46.7	40.0	
サービス業 (-38.1)	9.5	42.9	47.6	

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比△18.2、前年同期比△31.9と、いずれもマ

賢く作り、楽しく食べる

—ガン予防のための食生活—



経営者のガン予防 (6)

癌研究所、主任研究員 医学博士 坂元 吾偉

現在生きている私たちが全くガンにかからないようにすることは無理としても、ある程度はこれを防ぐことができると考えられています。そこで、ガンの発生を予防しようと考えられた日常生活の指針が「ガンを防ぐための12カ条」です。表1に示す通りこの12カ条のうち実に7項目までが食生活と直接に関係したものであることから、日常の食習慣や食生活がガンの予防のためにいかに重要であるかが分かります。

■ 多種類が危険性を分散

食べ物によってはワラビのように自然食品であっても発ガン性物質を含んでいるものもあります。しかし現在までの食品に発ガン性物質が含まれているか十分に、いや、本当のところはほとんど分かっていないのです。

したがって、できるだけ多種類の食品をとることによってその危険性を分散することが賢明です。また、食品によっては発ガン性を抑える物質が含まれていたり、抑える組み合わせもあるので偏らずにいろいろな種類の食品をとることで相殺効果も期待できます。

■ ガン予防のための心がけ

現在わが国では女性の乳ガンの発生率が著しく上昇してきており、近い将来には乳ガンが女性のガンの第1位の発生率を示すと予測されています。乳ガンの発生には脂肪の過剰摂取と閉経後の肥満が関係していることから、閉経後の女性ではとくに乳ガンの一次予防に肥満の予防が重要なポイントになってきます。

現在のところわが国のガンで最も発生率の高い胃ガンの発生には塩辛いもの、すなわち塩分のとり過ぎが疑われています。理由は、食塩だけで胃ガンができるというわけはありませんが、他の発ガン性物質によって胃粘膜の細胞がガン化したとき、その発育を促進する作用が食塩にあるためと考えられています。

したがって、できるだけ塩分を抑えた調理を心がけることが胃ガンの予防には重要です。

■ 食事の仕方にも注意

食物中の発ガン性物質とは直接に関係はありませんが、食事の仕方にも問題があることもあります。

たとえば奈良県に食道ガンが多いのは熱い茶がゆを食べる食習慣に関係があると考えられています。また、度の強い酒を飲む人に食道ガンが起こりやすいのも同じで、これらは物理的刺激によると考えられています。

肉や魚の焼け焦げには微量の発ガン性物質があるため大量にとらない方が賢明です。

食事は日々最大の楽しみの一つなのです。あまりガンのことだけを気にしてはせっかくの食事がまずくなります。「食事は賢く作り楽しく食べる」ことが健康のもとです。 つづく

表1 ガンを防ぐための12カ条

- ① バランスのとれた栄養をとる
- ② 毎日、変化のある食生活を
- ③ 食べすぎを避け、脂肪は控えめに
- ④ お酒はほどほどに
- ⑤ タバコは少なくする
- ⑥ 適量のビタミンと繊維質のものを多くとる
- ⑦ 塩辛いものは少なめに、熱いものはさましてから
- ⑧ こげた部分は避ける
- ⑨ カビのはえたものに注意
- ⑩ 日光にあたりすぎない
- ⑪ 適度にスポーツをする
- ⑫ 身体を清潔に

○印は食生活関連を示す。